

県内の情報連絡員報告

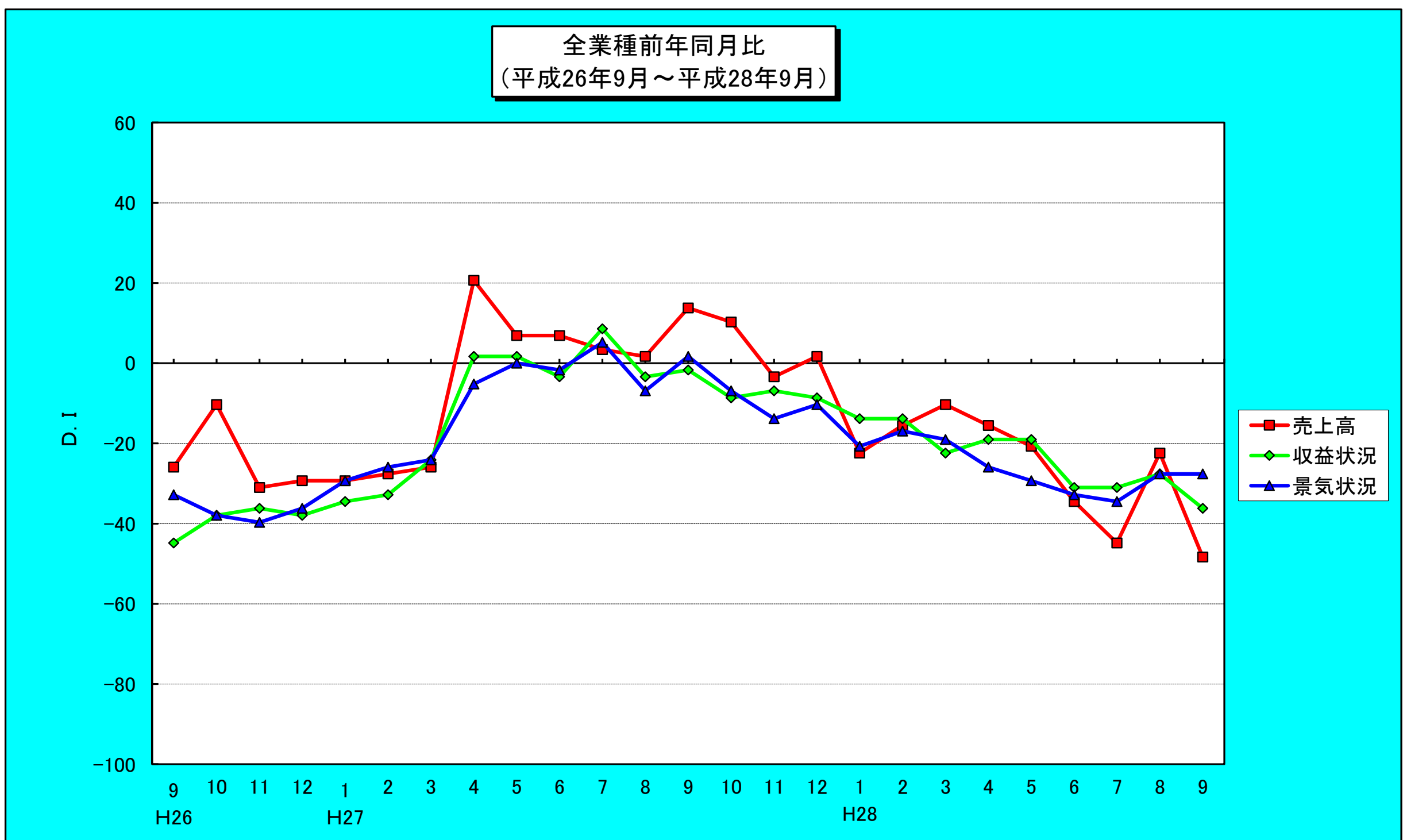
石川県中小企業団体中央会

■平成28年9月分

平成28年月9月期において

- D I 値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、5項目が悪化、2項目が横這い、2項目が上昇であった。先月は改善傾向であったが大きく反転した。ただ、一時的な要因も多くみられたことから今後を注視したい。
- 製造業においては、6項目が悪化、3項目が上昇で、特に売上高と設備操業度は二桁の大きな悪化となった。悪化の要因は、円高と国内外の経済の停滞から機械金属工業（鉄鋼・金属製品製造業、一般機械器具製造業）において工作機械関連と建設機械関連が振るわないこと、観光関連（菓子製造業、調味料製造業、陶磁器製造業、金箔製造業、漆器製造業）は新幹線開業効果の縮小に加え、シルバーウィークの休みが昨年と違ってまとまらなかったこと、窯業・土石製品製造業ではトンネル工事や加賀地区の商業施設建設といった一時的な需要が落ち着きを見せ始めたこと、木材・木製品製造業では加賀地区での住宅需要が落ち着いたことである。なお、好調であったのは、マイナス金利の影響で住宅需要が旺盛な金沢地区の木材・木製品製造業のみであった。
- 非製造業は、6項目が悪化、1項目が横這い、1項目が上昇であった。特に売上高の悪化が大きかった。悪化の要因は、消費の低迷で非製造業全般であるが、特に顕著であったのは残暑と天候不順で衣料品小売業とアパレル関係のお店がある片町・豎町商店街、シルバーウィークの休みが昨年と違ってまとまらなかったことから土産物小売業と能登地区と加賀地区の一部の旅館ホテル業、底引き網漁の漁獲が少ない水産物卸売業と水産物小売業であった。なお、好調であったのは、新幹線開業効果の縮小で観光客は若干減ったものの、客単価が上がったため売上が伸びている金沢地区と加賀地区の一部の旅館ホテル業と、震災関連輸送等が多かった運輸業であった。
- 新しい取組みについては、全業種では、「見られる」と「見られない」が拮抗していたが、業種により違いが見られた。製造業では、「見られる」が「見られない」よりも多かった（64.0%）。新しい取組みの内容は“新商品・サービスの開発”、“新しい販売先の確保”、“製造工程の刷新・改善”などが多かった。新しい取組みは経営資源に乏しい中小企業にとって負担が大きいことから、負担の小さい“他社との連携”や“既存製品・サービスの大幅な改善”も多いと思われたが、少なかった。また比較的取り組みやすい“製造工程の刷新・改善”よりも「新商品・サービスの開発」が多いのは、商品のライフサイクルが短くなる中、コスト削減や効率化UPよりも次々と新商品・サービスを提供することが重要なのだと考えられる。非製造業では、「見られない」が「見られる」よりも多かった（60.0%）。製造業よりも個人消費に依存する部分が大きいため、消費が大きく低迷する中、新しい取組みを行っても業績の向上に繋がる可能性が低いからだと考えられる。新しい取組みの内容は、“新しい販売方法の開発”と“新商品・サービスの開発”が多かった。比較的取り組みやすい“新しい販売方法の開発”が最も多く、非製造業でも“既存製品・サービスの大幅な改善”よりも“新商品・サービスの開発”の方が多く、新商品・サービスの継続的な提供が求められているのだと思われる。新しい取組みにあたっての課題については、製造業、非製造業共に“需要が不透明”、“能力ある人材の確保”、“必要な技術・ノウハウの取得”、“必要な設備の不足”が多かった。特に上位2つの理由は、市場環境が厳しい時期が長く、体力がなくなっている中、需要がある程度見えないと新しいことには踏み出せないことと、昨今の人手不足の状況を現していると言える。

◇全業種の前年同月比推移（H26.9～H28.9）



※本調査は、当会に設置している情報連絡員〔中小企業の組合(協同組合、商工組合等)の役職員58名に委嘱〕による調査結果です。調査は、情報連絡員が所属する組合の組合員企業の全体的な景況(前年同月比)です。

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	食料品	調味材料製造業	売上は前月比+5%になるも、前年比-10%であった。新幹線特需の減少とデフレ環境による後退を感じる。原料安と原油安を活かし切れていない。業界でも広域ブロック化を提唱し始めた。地域により好不況の差が大きく、各県ごとの温度差も大きい。新しい販路開拓は困難なので、新しい活用法を探求し提案していくしかない。
		パン・菓子製造業	暑さも収まり夏よりも需要は増加しているが、前年度と比べると売上高・収益状況ともやや減少傾向である。消費動向について、シルバーウィークから彼岸に欠けて、天候の影響もあってか、売上低下に繋がっている様子である。観光客もやや減っているように感じる。
	繊維工業	織物業 (加賀方面)	中国経済の低迷、中東の世情不安から輸出は伸び悩み、日本国内では少子高齢化の影響、閉塞感により当地繊維製品の需要は低迷し、加えて低価格志向が強くなり、受注が減少しており、厳しい採算性が推移している。 絹織物対前年同月比20%増加、合繊織物4%増加、トータル4%増加であった。要因は前年度が低調であったからである。
		その他の織物業 (染色加工)	売上高は前年と比べて上昇した。ただ、出荷のタイミングが9月に集中したためと思われ、業況自体が回復したわけではないと考えられる。10月の動きを注視する必要がある。 個人消費動向は一向に改善する見込みは感じられない。
		ねん糸等製造業	売上高・収益状況共厳しい状況が続いている。内需不振の影響が続いている。 衣料は個人消費に総じて勢いが無いように思われる。 業界の状況は、収束していることに変わりはない。その中で一部の企業が事業拡大に向けて設備投資を行っている。
		その他の織物業 (織マークの生産・加工)	28年9月度は前年度比約11%の売上減少となった。アパレル産業の不況が続く、業界にとってはこれからも厳しい状況が続くようである。
	木材・木製品	製材業、木製品製造業 (加賀方面)	9月度売上は前年度と比較すると、3%程減っている。8月盆休み明けは盛り上がりはあったが、9月度に入り、忙しいところと仕事量が例年より少ない所の差が出ている。10月以降もほぼ昨年並みと考えられる。
		製材業、木製品製造業 (能登方面)	取扱量は1,755m ³ で前年同期比-151m ³ 、売上高は27,340千円で前年同期比-1,816千円であった。低質材は売れているが良質材は住宅工法が変わり、使い場がなく売りにくい状況が続いている。これから秋の需要期を迎えるので期待したい。 業界の状況は、素材生産業者の廃業や高齢化と木材価格の低迷で原木の入荷が減少している。
		製材業、木製品製造業 (金沢方面)	引き続き需要状況は悪くない。年度の半分を過ぎ、現在までは累計でも前年を上回っている。毎月報告しているが、合板の入荷は依然悪く、一部では年を超すとの情報も聞く。
	印刷	印刷業	売上は前年同期と比べると昨年以上に悪化している。納期は余裕があるが現場を休ませるわけには行かず、無理して稼働するが納品単価が厳しい。収益について、一つのミスもなければ何とか維持できるが特に再度の打ち合わせの確認と予備枚数の最低限度で厳しくなる。
	窯業・土石製品	砕石製造業	8月の組合取扱い出荷量は対前年同月比、生コン向け出荷は8.5%減、合材用アスファルト向け出荷は11.8%の増となり、特需による出荷量は前年度は出荷が全くなく対比できないが、今年9月度全体の1.6%あり、全出荷量では5.5%減少となった。また、4-9月の上半期の対前年同期比では、生コン向け出荷は0.3%減、合材用アスファルト向け出荷は19.1%の減となったものの、特需出荷により僅かに1.7%増加になった。
		陶磁器・同関連 製品製造業	売上高、収益状況共に悪化傾向にある。消費の低迷の度合いが段々と厳しくなっていることが原因と考える。原材料は値上げ傾向にあるが、現在はそれほど苦になるほどではありません。原油や為替も比較的安定しているし、天候も雨が少なかったものの、大きな災害があったわけでもない。一日も早く、東京に消費が出てくることを期待している。 消費動向は極めて悪化傾向にあると考える。天候も比較的温暖で過しやすくなつては来ているが、消費が上がってこない。観光客は金沢を中心に多くの方が訪れているが財布の紐は固いようである。
		生コンクリート製造業	平成28年9月末日の県内の生コン出荷量は、前年同月比92.6% (組合員外会社を除くと92.0%) となった。各地区の状況は、南加賀地区134.1%、七尾地区187.2%とプラス値となり、金沢地区79.7%、羽咋鹿島地区99.2%、能登地区81.5%とマイナス値となった。南加賀地区のプラス要因は民間商業施設建設の為であり、七尾地区においては前年度同月の出荷量が少なかったことが大きく影響している。県下生コンクリート出荷量の官需、民需(組合員外会社含む)の前年同月比は官公需117.7%、民需81.6%となっている。
		粘土かわら製造業	売上高は前月に比して増加し、それに伴い収益状況も若干改善した。しかしながら、前年と対比すると売上高は減少しており安定した収益は確保できていない。 消費動向について、引き続き、新規住宅着工において屋根材の瓦使用が低下している。 業界の動向について、瓦を扱う会社が減少傾向であり、屋根材の瓦利用率も低下してきている。
	鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	業種により好調、不調の声は様々であるが、操業度・受注状況は減少傾向であり、先行きについては円高の影響もあり、依然として慎重な見方をしている組合員が多い。
		非鉄金属・同合金圧延業	先月同様、中国からの観光客も一段落し、売上も例年並みとなった。 消費動向について、工芸品については欧米観光客に人気があり、先月同様、順調に推移している。
		鉄素形材製造業 (鋳鉄鑄物の製造)	9月度の生産量は前年同月96.6%と年初以来低迷している。これまで比較的好調であった工作機械向けも生産量は低下傾向になってきている。他分野向けも低下傾向で厳しい状況になってきている。 大企業中心に収益が改善しているが、中小にも利益の一部が回る「積極的取引改善」を進める活動への取組みが、業界として必要である。
		鉄素形材製造業	売上高・収益状況共に2年余り低調に推移している。建設機械関連は依然として好調時と比べると3~4割減のままである。工作機械関連は年末から年始にかけての受注があり、やや持ち直しが見られるが、まだ安心できる状態ではない。
		一般産業用機械・装置製造業	機械関係の売上高は前期比と同水準で推移している。年明けから受注環境は悪化傾向にあったが、8・9月は改善傾向に変化した。しかし、直近数年の勢いは感じられない。建設機械は売上・収益共対前期比マイナス、対前月比若干改善している。 業界の状況は、鉄骨関係ではますます工期の遅れが深刻さを増してきた。在庫が増加傾向にあり、調整を行うため操業度は低下している。建設機械需要がなかなか盛り上がらないが、9月から11月は雪寒の季節要因で売上が前月比プラスの見込みである。
	一般機器	機械、機械器具の製造 又は加工修理	当組合は鉄工関係の中小企業100社で構成されている団体だが、業況については全く二分されている状況である。すなわち、好調なバス需要に支えられて、自動車関連の部品を製造している企業は2交代での対応を迫られるなど、大幅な増産への対応が求められている。一方で、工作機械や大型・中型の建設機械等については、設備投資意欲の減退によって受注の減少が続いている。しかしながら、これまで不調を続けてきた繊維機械については、夏以降徐々に受注の伸びが期待されている。但し、この分野についても主要な取引先である大手メーカーからの値引(コストダウン)要求が厳しい状況にあるのは変わらない。
		機械金属、機械器具の製造	横這いながらも景気状況は良好である。
繊維機械製造業		組合員の繊維機械向け部品加工は、前年平均比プラス4.6%、前月比プラス11.5%、H19年平均比マイナス15.2%とプラス基調になったものの、先行き堅調であったインド市場で、このところ円高が影響して欧州メーカー対日本メーカーとの間で受注価格競争が激化し、引合案件は多いものの、受注確保が難しくなっている。当該市場では取引先ブランドが高く評価され、価格が通っていたが、直近では投資金額削減が先行要件となっており、本市場でも低価格が正当化される傾向が出てきた。一方、中国市場は未だ厳しい状況が続いている。台湾系繊維メーカーがベトナム投資を強化しており、同地域からの成約が増加している。したがって、取引先からの生産要請には機種・台数のバラツキが多く見られ、組合員企業の操業にも不安定さが出てきている。工作機械関連事業向け部品加工は、前年平均比プラス5.1%、前月比プラス8.3%、H19年平均比プラス12.5%と同事業の仕事も増加している。しかし、直近の受注状況は先延ばしになっていた自動車案件が一旦動き出したかに見えたが、このところの円高で投資案件に変更が始め、再びスタート遅れが発生してきている。このように不安定要素が強い市場状況ではあるが、9月に開催された米国・シカゴでの工作機械国際展示会が盛況に終わり、同地区からの今後の受注動向に期待をしている。11月には日本でも工作機械国際見本市が開催されるが、同展示会の成果と平成28年度予算における、ものづくり補助金がうまくリンクすれば、年後半以降には受注増加も見込まれる。同関連の組合員企業への生産要請もアップしていくと思う。	

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	一般機器	機械工作鋳金加工	4月～9月前期の工作機械売上高推移をみると、1～2割弱の上下変動があるが、大きな乱高下はしていない。但し、前年度の売上高からすると、2～3割ほど低くなっている。昨年、中国の破綻やヨーロッパ経済危機、円安傾向にも関わらず、石油相場の不安定さなどがじわじわを影響しているのではないと思われる。工作機械とそれに伴う鋳金加工においても若干現場の活況が落ち着いてみられる。受注後の納期も圧縮され、注残の減少も窺われる。但し、東京オリンピックを目指して観光産業とされるバスや大型輸送機器の販売は好調である。自動車向けプレスなども後半少し持ち直すような話も聞かれるため、後半の受注獲得への対応が大事であると思われる。
		機械器具及び其の他 金属製品の製造	売上高は前月比・前年同月から変わらない。仕入単価が下がっている企業が出てきた。従業員が増えている企業が数社出てきている。輸送用機器は、売上高は前月比からマイナス・採算性・資金繰り・業績は前月比、前年同期比から良くなっている。電気機械は、溶接用ロボットが海外向け(中国)が微減である。液晶が前月の生産から下降気味になっているが明るさも見えてきた。全体的には良い。チェーン部門は二輪・四輪・産業用(小型)は順調であるが、産業機械大型とコンベヤーは減少、一般的に受注が安定である。繊維機械はオートワインダー・革新紡の生産は前月より増加している。業績についても良くなっている。
		機械金属、機械器具の製造	売上高・収益共大きな変化はない。繊維機械関連はやや低調ながらも安定している。工作機械関連はメーカーや機種により生産量にバラツキがある。建設機械は低調である。
製 造 業	その他の製造業	漆器製造業 (能登方面)	売上・収益共に力強さが薄れてきている。 消費動向は、新幹線開業から1年半が経ち、入込等は一服感があり、今後の対策・対応が求められる。
		プラスチック製品 製造業	売上としては良くない状況である。食品・電子部品についても全体的に良くないと思われる。自動車は県内での仕事量としては多くないが、メーカーや機種によって生産量は大幅に違うようである。原材料価格面は円高でプラス傾向ではあるが、プラス分は価格に適正に反映されているかは分からない。原料価格は短期的に安定しているが、中長期では不安定感が拭いきれない。 消費動向について、金沢地域での9月週末及びシルバーウィークは天候が良いとは言えなかったが、人出は多少あったように感じる。新幹線開業前よりは好調だが、昨年の開業年と比較すると良い状況とは言えない。金沢が確実に観光都市化していることは間違いないが、今後、何度も足を運んでもらえるような工夫が必要だと思う。 業界の状況は、9月の業況としては、悪くはないが良くもないと言う企業もあるが、全体としては良くない状況である。9月のシルバーウィークは全国的に天候が良かったとは言えず、人出も多くない状況だったようである。一般的に天候が思わしくない日は“人出はあっても人出の割にモノは動かない”ケースが多いが、今年は人手も少なく、更に天候の影響も受け、モノの動きが良くない状況であったように思われる。工業部品では一部には忙しい企業もあるが、国内での新製品開発や海外へ移行した仕事がゆっくりとではあるが国内に戻りつつあるとの実感はあるようだが、いつもの状態に戻るか分からないため楽観視できないようである。収支については2～3年前の原料高から比較して、値下がり傾向であるが、OPECの生産調整や円安により価格上昇も考えられるため、先行きは不透明で不安定であることは変わらない。現状維持及び成長するためには、新しい取り組みが必要と思われる。
非 製 造 業	卸売業	事務機・事務用品卸売業	売上高は前年同月並みで、先月より若干良かった。決算(半期)を迎えた好調企業ユーザーからの引き合いが少し見られた。厳しい状況にありながらも、時には明るい兆しもある。
		水産物卸売業	9月は対前年比96.6%と、売上高は5月以降前年割れが続いている。近海底引きでの漁獲数量が減っているためと思われる。 消費動向について、9月の天候の影響で入荷数が少なかった。消費動向も低調と思われる。
		一般機械器具卸売業	住宅市場は回復傾向が見られるが、非住宅市場における民間需要の落ち込みが大きく前年を下回っている。このため、売上、収益共に前年を下回っている。 消費動向について、LED照明器具の販売が新築、既築リニューアル共に好調である。コストも量産効果からリーズナブルな価格が実現され、LED化は更に加速すると思われる。
		各種商品卸売業	旅館向け半纏納入業者の話によると、温泉旅館の入込客数は昨年に比べ全般的に減少傾向にあるものの、新幹線開業前と比較すれば、まずまずと聞いている。この環境下、旅館向け半纏納入業者の需要は昨年より高く安定した推移が継続している。
	小 売 業	燃料小売業	先月の報告において、8月中は猛暑効果を受けて売上高は前年比をキープするものと思われたが、前年比を下回る結果となり、9月も厳しい市況価格の低迷から、前年比を下回るものと思われる。収益状況についても、販売価格が厳しい競争の中で、仕入価格の販売価格への転嫁が進まず、厳しい状況が続いている。 消費動向について、県内のスタンドでも油外販売における営業展開は盛んになってきており、冬期の灯油販売に合わせて、車両販売、修理、タイヤ交換のニーズは増加していくものと思われる。 業界の状況について、当地においては依然として販売競争の中で仕入価格の販売価格への転嫁が進んでおらず、県内各社の収益状況を圧迫するものとなっている。一部スタンドでは油外製品サービスの注力を並行して行う営業展開も鮮明であり、今後の展開に注視するも、まずは自社の収益状況に見合った価格設定が強く望まれる。
		機械器具小売業	平成28年9月度、金額伸びは100%であった。残暑が厳しく、白物家電は冷蔵庫90%と低調であったが、洗濯機110%、ルームエアコン110%と全般に好調で、カラーテレビ台数は100%に留まるも、4K・大型タイプの構成比が40%を占め、単価アップとなり、冷蔵庫ダウン分をカバーした。 消費動向について、前年実績があった家庭用太陽光発電システムが、今年度はほとんどない状況となり、太陽光発電の売上金額減少分をカバーするのがなかなか難しい状況になっている。今年度は猛暑もあり、夏物商品の好調に加え、カラーテレビの4Kタイプの増版で太陽光のダウンをカバーし、4～9月期ではトータル102%とわずかながら前年を上回った。
		男子服小売業 婦人・子供服小売業	昨年は中旬より平均気温で秋物にも動きが見られたが、今年は天候不順、気温の上昇もあって来店客数も減少、初秋物が振るわなかった(前年比95.2%)。反面夏物は徹底して売り尽したので、持ち越し商品が大幅に少額で留まった。
		鮮魚小売業	9月期は残暑、台風の来襲、連休による消費疲れにより、日常食材への消費は減少している。 消費動向について、本年は多数の台風等と残暑による高温の影響で、底引き網漁解禁も漁師の出漁数も少なく、消費者の購買力も盛り上がりならず、観光客も全体として減少している。 業界の状況は、台風等による悪天候と魚介類の入荷の減少により、前年より業況は悪かった。また、観光客も減っており原因の一つになっている。
		他に分類されないその他の 小売業	昨年9月はシルバーウィークがあり、GW並みの人出があった。今年は大きく観光客も減少した。兼六園有料入園者数は前年比81.5%であった。
		百貨店・総合スーパー	売上昨年対比、計92.3%、ファッション89.0%、服飾・貴金属82.4%、生活雑貨89.6%、食品97.1%、飲食100.4%、サービス96.1%、客数120.9%であった。飲食以外の全ての業種の売上が昨年対比を割っている危機的状況である。加賀市周辺の路面店に話を伺う機会があり、ここ数年の中で売上の昨年対比が一番悪い状況であったと聞いたが、弊社同様にこれといった原因が見当たらずに困惑しているようである。来春、近隣にオープンする大型施設が出来る前にも関わらず、この数字の低さに館全体が不安を感じている。
花・植木小売業	今月は敬老の日、お彼岸と花の利用が増す月に天候が不順で心配していたが、昨年並みに売上があった。上半期が終わり、売上集計結果は昨年より少々アップとなり、後半にも期待が高まる。		
商店街	近江町商店街	全体的に売上は減少しているものの、鮮魚店は底引き網漁の解禁で地元客が増えたようだ。青果店では地物の梨やルビーロマンなどで果物が好調、梅干しなど自家製の加工販売も良かった。 消費動向について、観光客は減少している。 業界の状況は、土・日・祝日はまだまだ観光のお客様も大勢いるが、昨年と比べると訪れる観光客は減少している。人込みを嫌がり、一度近江町市場を離れた地元のお客様達にどうしたら戻って来て頂けるかが現在の課題である。地元のお客様に向けた商品(お惣菜や小パック商品)販売も検討している。また、近江町市場ビジョン委員会では、近江町市場の魅力を外内に発信すべく季刊誌「お!のある暮らし」を発行しており、先月第3号が出来上がり、店舗や付近の公民館・図書館等に配布するなどしている。	
	輪島市商店街	昨年対比、売上は97.4%であった。能登町でのプラント3の outlet に大変憂慮している。正確な情報がないので困っている。	

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非 製 造 業	商店街	片町商店街	景気低迷というか消費低迷と言う感じがする。消費者が商品を購入する手段が多くなり、レジャーの選択肢も増えている。消費額は増えていないのに、通信費も含めて消費に回るものが増え、商店街で消費する金額も減っているような感じがする。 消費動向について、売上は飲食そして物販とも台風や気温が高かったのも多少は影響していると思う。特に衣料品は秋の立ち上がりに気温が高いのは売上高に影響している。 業界の状況は、天候に左右された一ヶ月だったと思う。台風の影響もあり、来街者の減少もあった。衣料品を扱う店舗は気温が高く、秋物への販売の移行がスムーズではなかった感じがある。10月に期待したい。
		堅町商店街	台風・天候不順でアパレル秋物の動きが著しく悪い。売上、収益とも悪化していると思われる。 観光客は少しずつ堅町で増加していると思うが、消費が増加しているとは聞いていない。免税カウンターの効果が11月以降出て欲しい。 業界状況は、ホテル、ドミトリー、アパレル等の出展に向けて内装工事が進んでいる。10月～12月には専門学校、スーパー跡のマンション工事もスタートする見込みである。全体的には空き店舗は減少している。しかし、既存店ま今までと同じように苦しんでいる。
	サービス業	旅館、ホテル (金沢方面)	宿泊者数は新幹線開業2年目の9月は昨年並み、もしくは若干減少と見られる。 消費動向について、個人観光、外国人など需要は相変わらず多いが、昨年の開業効果に比べると落ち着きを見せている。但し、客単価は10%程度伸びているので、売上は昨年並みになっていると思われる。 業界の状況は、観光、スポーツ団体を中心とした入込が多く、新幹線開業2年目の夏場だが、5%増加しているように思われる。
		旅館、ホテル (加賀方面)	利用人数ではイーブンで推移した。単価が若干プラス傾向であったので、売上もプラスであった。 消費動向は若干上向きなものの弱含みである。 業界の状況は、6月以降、首都圏からの需要が若干下降しており、関西圏、北陸圏からの戻り需要が下支えしている。 温泉地全体の宿泊客数は対前年約87.4%と昨年より大きく減少しました。春からの前年割れが今月も同様の結果となり、大多数の旅館で宿泊客数が前年より減少した。何より昨年はシルバーウィーク、新幹線開業など好影響が重なったことが大きな要因である。各旅館の売上はまだ判明していないが、温泉地全体の集客数は前年より大きく減少したことから売上減少は避けられない。 消費動向について、団体客動向は相変わらず鈍い。シルバーウィークがないこの9月は個人の旅行需要も更に減退した。但し、こうした中、ネット予約客の実績は昨年並みに推移している。
		旅館、ホテル (能登方面)	浴客数対前年比88%、売上は86%で減少した。新幹線のリバウンドと前年のシルバーウィークの曜日並びが良かったため、今年は減少したと思われる。 地元利用客が減少傾向となっており、対策が必要である。
		自動車整備業	平成28年9月の継続検査実績車両数は、登録車で対前年同月比110.9%、軽自動車は107.1%であった。2016年後半は前半を挽回する予想の中、9月は想定通り対前年プラス10%となった。新規登録では、中古車新規も含み、前年同月比100.9%であった。新車販売では登録率は100%、軽自動車は2年5ヶ月ぶりのプラス転換から1ヶ月にしてマイナス(94.4%)に戻った。業務量は上がっているが、売上高・収益状況とも大きな変動はないと思われる。
	建設業	板金・金物工事業	新築が少ない。少ない新築住宅を大手ハウスメーカーが建てているので、その下請け業者だけが忙しいようである。 消費動向について、10月5日の台風による被害が少しあったが、全体としてはリフォーム工事も少ない。 業界の状況は、例年より新築住宅は少なくなっている様だが、工場等のリフォーム工事は増えているようである。しかし、それらは作業員(板金工)の揃っている事業所であって、個人事業所は暇なところもあるようである。
		管工事業	売上高と収益状況については前年同期より10%の落込みである。季節的には工事の良い時期である。収益状況は落ち込みではあるが、全体的には仕事量は減ってはいないようである。 業界の状況は、9月期の給水装置工事の受付件数は、昨年同期とほぼ横這い状態である。またガス管工事受付件数も横這い状態である。現状では仕事の量は前年と変わりはない。
		一般土木建築工事業	公共事業では、今年度これまで早期発注の効果があり、比較的良好な状況であったが、ここきて年度当初からの契約金額累計が昨年度同期を下回ってきている。このことから売上高、収益状況に関しては、昨年度同期に比べ、下降傾向にあると推定される。
	運輸業	一般貨物自動車運送業①	中国や新興国の景気減速が大きく、海外向け製品の輸送は低迷している。そのような影響を受け売上も低迷しているが、原油価格が落ち着いているため、収益は前年とほぼ同様である。
		一般貨物自動車運送業②	9月度の売上高は前月比約8%、前年同月比で約5%プラスであった。増加要因としては、8月の稼働日が少なかったこと、また福井から東北方面への除染用フレコンや、七尾からの建設用コンパネ輸送が順調なことである。収益面では今のところ軽油価格が安定しており、まあまあのようである。ただ、産油国の生産調整機運もあり、この先の原油価格次第では安心できない。